

2023/6/19 (月)

朝の礼拝

聖書 ヨハネによる福音書 15章 12-14節 (新約聖書 199頁)

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

わたしの友

イエスの時代、聖書によく登場するファリサイ派、律法の専門家、律法学者は誰々先生の弟子だとか、会堂では上席に、広場では大勢の人たちから挨拶されることを好み、神様から選ばれた「教師」だと自負していました。疑いのない尊敬を集める先生でした。

実は弟子たちや群衆もイエスを「先生」「主よ」と呼び、新しい教えを語る特別な先生だと期待していました。一方、イエスを憎んでいた律法学者たちもイエスを試そうと「先生」「教師」と呼びました。でもイエスは彼らの思うような先生ではありませんでした。

まずイエスは言葉だけでなく行動で伝える人でした。自分から近づき、手を差し伸べる人でした。先生と呼ばれた人たちが絶対に近づかない倒れた人、からだの不自由な人、悪霊に取り憑かれた人、病人、貧しい人、汚れた人、幼子、女性、やもめ、異邦人に寄り添いました。

だからイエスは汚れた者、罪人の仲間として十字架で殺されたのでした。傷つき、寂しく、悩み、心が折れ、誰も耳を傾けず、訪ねて来ない、ひとりじっと耐え、寄る辺なき人にイエスは近づきました。そして共にいるあなたこそ「わたしの友である」と言ったのです。

(しばらく黙想しましょう)

慈しみ深い主よ、生きることの困難と困惑に打ちひしがれ、希望を失おうとしている人びとのために祈ります。どうか慈愛のみ手を延べて、彼らを支えてください。彼らを恵み、その悩みの中から主を仰ぎ見る力を与え、まことの希望を見いだして、主にある喜びにあずかることができますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン